

会員ひろば

SDGs

Sustainable Development Goals

SDGsに取り組む会員市内事業者を紹介します！

有限会社 高島産業

代表取締役 高島 景子

住 所 伊丹市桑津4-1-20

電話番号 072-770-7500

休業日 土・日・祝



会社HP



あなたにとって「不要なもの」も、 誰かにとっては「必要なもの」



沿革

高島産業の歴史は今から遡ること80年前の太平洋戦争が終戦した昭和20年のこと。戦争が激化すると衣類の配給はほぼないという状況下で、総合繊維商いとして高島商店を開業。戦後まもなく米国文化の影響で日本に洋裁が流行り、衣生活は急速に発展した。まさに衣類文化全盛期ともいえる時代を生き抜いてきた企業である。

現在の伊丹市桑津に新社屋を移転し、中古衣料のドライブスルー買取を始め、独自の経営理念に基づいたサービスを開始。現在、代表の高島景子は、先代の社長高島昌年より引き継いだワーク・ライフ・バランスを念頭に、従業員に優しい職場環境構築を進めており、兵庫県※表彰企業に選ばれた。



※WLB：ワークライフバランス



業務内容

回収された古着は、ゴミではなく価値ある「服」として再び仕分けられ、市場に再投入されている。各国ごとで違う季節や、趣味嗜好、好まれる素材などを細かく分けて出荷することで、必要な人に必要な衣類が届くようにしている。「もったいない」の理念を軸に、アジアを中心とした海外の輸出先からも真摯な姿勢と丁寧な作業が高い評価を得ている。

この取り組みは、環境負荷の低減だけでなく、衣類の価値再発見を促し、物を大切に扱う意識を啓発するきっかけとなっている。



こだわり

地球環境というかけがえのない自然を『財産』と捉え、働く人々を『人財』と位置づけており、より良い人生を送るために、働きがいのある職場環境を目指している。働くスタッフが互いに協力し合い、家庭、仕事、そして自身のすべてをバランスよく維持しながら働き続けられるよう、時代に応じた柔軟な変化を続けたい、と高島代表は話す。



未来へ一歩

僕たちの SDGs STORY



高島産業は、手放された衣類を「資源」として捉え、リユース・リサイクル率 90% 以上、廃棄率 10% 以下を達成している。これは、環境省データの 34% を大きく上回る数値だ。「分別」「選択」「開発」という 3 つの強みを軸に、SDGs 目標 12「つくる責任 つかう責任」を具体化している。

衣類は 200 以上のカテゴリに分類され、専門知識を持つプロによる仕分けでリユース・リサイクル率を向上。国内外市場への輸出では相手国のニーズに応じた戦略を展開し、「TAK」マークにより品質と環境配慮を保証している。また、リユースが難しい衣類はウエスや反毛原料に再生され、衣類を最後まで使い切る仕組みを実現。

「もったいない」の精神を体現し、衣類廃棄ゼロに向けた循環型社会のモデルケースとして持続可能な未来を切り開いている。



※本コーナーでご紹介を希望される会員事業所様は
経営支援課までお気軽にご連絡ください (TEL. 072-775-1221)

会員ひろば一覧

